

す。以前はエスカードで食品、衣類、薬、文房具など一つの店で生活に必要なものがほとんどそろっていました。しかし、エスカードが食品だけを売るようになってからは生活用品を全て家の近くでそろえることは難しくなりました。スーパーは牛久市内にたくさんあり店舗がありどこに住んでも生きやすいのですが、衣類や文房具はひたち野うしく駅周辺に店舗が集中していて牛久駅の近くにはあまり店舗がなく、お年寄りや車を持っていない家庭ではそれらが必要なときに買いに行くのはとても大変です。以前のようにエスカードの中に服屋さんや文房具屋さんがあればお年寄りの方が服を買いだときや子供が急に文房具が必要になったときにとっても便利だと思いません。

次に、「安全なまち」とは、明るくてこの住民同士の関わりが深いまちだと考えました。私が小学生や中学生のころ、登下校の間には必ず地域の方々が見守ってくださいって

いました。中には友達と別れて一人で帰らなければならぬ時間長い子に付き添ってその子の家の近くまで一緒に行ってくださいる方や危険な箇所を見つけたら市や学校に報告してくださいさつていた方もいました。他にも、地域の方と一緒に何かをつくりたり掃除をしたりしたことで地域の方をより身近に感じるのとができていました。いつでも見守られている実感があることで子供にとってもその親にとっても安心できると思います。実際に自分が小・中学生のころは、とても安全だと感じていました。が、高校生になって帰りが遅くなったことで危険だと感じることもでてきました。広くて交通量が多い道路は外灯も多く明るいのですが、そうでない場所では暗く人通りも少ない所が多いです。暗い道ではガタガタした箇所に気付かず自転車で転びそうになつてしまうこともしばしばあります。人通りが少ない道こそ外灯があればもっと安心して通れると思います。

住みやすく住みつけたい町にする為には
生活のしやすさと安全性はとても大事だと考
えます。今でも様々な世代の方が暮らしやす
いと感じているでしょうが、以前の良かった
ところをもう一度取り入れたり明るくするこ
とでより良い町になるのではないでしょうか